

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

税理士法人 優和

経営者への活きた言葉

TEL 03-3455-6666
FAX 03-3455-7777

経営者への活きた言葉

和の魂が日本人の精神的支柱 千 玄室（茶道裏千家前家元）

1. 最近ようやく、古典の対する関心が増したようだ。日本人として、国ができた単なる神話と思わずに、歴史的意義を知るために「古事記」を先ず開いてほしい。
2. 日本の文化の総合性の基が古典にあり、寄せ集めの雑居文化ではなく調和の取れたもので、これがいわゆる日本文明といわれる由縁である。例えば日本が国として成り立った上代において、貴族や官人は儒教の教養を仏教の教えとともに身につけていたし、古来の神の道の在り方も十分に自分のものとしていた。神道の祭祀を重んじていたことも古典を読めば知ることができる。
3. 平安時代の貴族支配が終わり、鎌倉に幕府が設けられると、武家の勢力が増し、道教（後に朱子学）により武士道が必然的に生まれた。刀を持ち強いものが武士の在り方ではなく、守る・防ぐという「和」の精神が必要となる。和の魂、それが日本人の精神的支柱となるのである。

（参考：「致知」2018 年 10 月号）

ワンポイント経営アドバイス

格好よさから乗り心地へ 鈴木 修（スズキ会長）

1. 1990 年ぐらいまでは乗用車といえば流線型のフォルムが主流だった。そんな中で、1993 年に背の高いリッポのワゴン型軽乗用車「ワゴン R」を発売した。これが予想以上に当たった。1993 年にスズキとして軽自動車として初めてとなる「R J Cカー・オブ・ザ・イヤー」をいただいた。つくづく思ったのは、いかに優れた商品でも、時代の流れに沿ってタイミングよく出さなければ、日の目を見ないということだ。
2. 私は軽の規格、軽の車は芸術品だと思っている。軽は世界では通用しない、日本のみで進化したガラバゴスだと言う人もいるが、小さな車が本来の基本だ。日本の道路の 80%以上、道幅平均 3.8 メートルの市町村だ。

（参考：「週刊東洋経済」：2018 年 9 月 8 日号）

経営者のための危機管理

食品大手、逆張りの国内積極投資

1. 明治や味の素、サントリー食品が国内で新工場の建設を進めている。食品・飲料業界では工場の老朽化が進んでおり、建て替えが必要なケースも少なくない。人口が減少する中、業界最大手はあえて国内で攻めの投資を決断、ライバルの引き離しを狙う。
2. チョコレートの明治は、大阪工場（大阪府高槻市）で、増産体制のため約 270 億円を投資。埼玉県坂戸市の工場では新棟建設の準備が進む。味の素は約 400 億円を投じて、新工場を建設。国内工場に積極投資することで、量と質の両面でライバルを引き離し、国内での収益性をさらに向上させる。

（参考：「日経ビジネス」2018 年 9 月 3 日号）

古典に学ぶ

世間の景気に乗じてはならない

（解説）しかるにさほどまでの熟慮考察を経ずして、ちょっとした世間の景気に乗じ、うかと志を立てて駆け出すような者もよくあるけれども、これでは到底末の遂げられないものではないと思う。既に根幹となるべき志が立ったならば今度はその枝葉となるべき小さな志について、日々工夫することが必要である。

（参考：渋沢栄一「論語と算盤」：国書刊行会）